

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

すべてのものに仏様が宿っている **松原 泰道** (南無の会会長)

1. 禅に「看脚下」という語句があります。灯火が消えた真つ暗闇では、ありぬものを想像して右往左往し、かえって道を失ってしまいます。そんな時は、脚下を看るといふ当たり前のことをしっかり行うことが大切です。「禅は人々の脚跟下にあり」といいます。遠いところではなく、自分の足元、いまここに禅はあるのです。禅といえば何か特別なものと考えてしまいがちですが、そうではありません。いま、この場で、何をすべきかを問うものです。
2. 仏教には「ぶっしん 仏性」といふ言葉があります。いまの言葉に置き換えれば、「万物をして、そのものをそのものたらしめる根源的な心」と言えるでしょう。つまり機能、働きと言い換えることができます。例えば、1枚のティッシュペーパーにも仏心があります。これはつまり、ティッシュペーパーでなければならぬ機能を持っているということです。電卓がどんなに便利だからといって、こぼれたお茶を拭くことはできません。柔らかい紙だからこそ拭くことができます。仏教はそこを捉えて、一枚のティッシュペーパーにも仏様が宿っていると説くわけです。
3. すべてのものには固有の役割があります。ものがそうですから、人間一人ひとりにおいてももちろん同じことが言えます。自分に与えられた役割を自覚して、自分のために自利と、他人のための利他とが一つになっていくような仕事、人生を、ぜひ目指していきたいものです。 (参考:「致知」2009年2月号)

経営者のための理念・哲学

経世済民を志す **小嶋光信** (両備グループ「岡山県」代表)

1. 小嶋は自問した。「長い間、さまざまな会社の経営に携わってきた。赤字の会社を立て直し、伸び悩んでいた会社の利益を大きく増やしたこともある。でもそうして利益を追及することが、本当にそこで働く人やお客様の幸せにつながってきたのだろうか。自分は経世済民を志して経営者になろうと思ったのではなかったか」。
2. 小嶋は、経営者人生 20 年を過ぎて自分なりの経営の意味をつかんだ。「経営とは、その会社にかかわる社員や顧客を苦しみから救い、幸せにすること。企業が利益を出さねばならないのは、その唯一無二の使命を永続的に果たすためである」。この時期から、利益の追及は必ずしも重要事項ではなくなり、新たに一つの経営理念と三つの経営方針を定めた。理念は「忠如」(おもいやり)。方針は「社会正義」(社会へのおもいやり)、「お客様第一」(お客様へのおもいやり)、「社員の幸せ」(社員へのおもいやり)の三つだ。(参考:「日経ベンチャー」:2009年2月号)

ワンポイント経営アドバイス

一時の利益より長期安定的利益

1. 10 万ルビー (28 万円) の車を作る。インドの大手自動車メーカー、タタ・モーターズの発表は、驚きをもって世界に伝えられた。その計画に矢崎総業は早々と賛同した。矢崎総業は車の神経網となる電線「ワイヤハーネス」で世界トップのシェアを持つメーカーだ。しかし、その実現には暗雲が立ち込めている。タタが選んだ工業用地が、地元農民の反対で買収できなくなったのだ。それでも矢崎裕彦会長は「タタの計画が実現するまで、パートナーとして待つことができる」と答える。
2. なぜ、待てるのか。それはひとえに矢崎が非上場の家族企業であるからという答えに行き着く。短期的利益を求める外部株主の意向を気にせず、長いスパンで事業の展開を見守ることができる。矢崎にとって大切なのは一時の利益よりも、時間かけてタタとの事業を完成させ、長期的に安定して収益を得ることなのだ。

(参考:「日経ビジネス」2008年12月1日号)

古典に学ぶ

人生の準備期

「今人間の活動を大体 60 歳頃まで考えますと、そのうち 20 歳までは志を立てる時代と言ってよく、すなわち将来国家社会のために役立つ人間になろうという志は、15 歳頃から遅くとも 20 歳までには確立せねばならぬのです。そしてそれから以後の 20 年は、いわば準備期と言ってよいでしょう。同時に 20 歳から 40 歳までの 20 年間の準備のいかんが、その人の後半生の活動を左右すると言ってもよいでしょう」

(参考:森信三「修身教授録抄」:致知出版社)